



平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月2日
東

上場会社名 株式会社ダイショー 上場取引所
 コード番号 2816 URL <http://www.daisho.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松本 洋助
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部広報室長 (氏名) 堀脇 裕之 (TEL) 092-611-9340
 四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	13,365	0.7	1,416	1.6	1,423	1.5	739	△7.4
23年3月期第3四半期	13,270	5.7	1,394	8.5	1,401	8.9	798	9.0

(注) 包括利益 24年3月期第3四半期 743百万円(△6.5%) 23年3月期第3四半期 794百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
24年3月期第3四半期	円 銭 76.59	円 銭 —
23年3月期第3四半期	82.69	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
24年3月期第3四半期	百万円 13,451	百万円 6,637	% 49.3
23年3月期	11,218	6,048	53.9

(参考) 自己資本 24年3月期第3四半期 6,637百万円 23年3月期 6,048百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
23年3月期	円 銭 —	円 銭 8.00	円 銭 —	円 銭 8.00	円 銭 16.00
24年3月期	—	8.00	—	—	—
24年3月期(予想)	—	—	—	8.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,300	2.2	1,200	△10.4	1,200	△11.2	610	△3.2	63.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

24年3月期3Q	9,868,800株	23年3月期	9,868,800株
24年3月期3Q	215,817株	23年3月期	215,701株
24年3月期3Q	9,653,026株	23年3月期3Q	9,653,348株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(5) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による景気の停滞から個人消費に持ち直しの動きが見られたものの、原発事故に伴う放射性物質への不安、欧州の債務問題等による長期化する円高の影響等により、景気の先行きが不透明な状況で推移いたしました。

食品業界におきましては、個人所得の伸び悩みから消費マインドの低下が続くとともに、原材料価格の高騰、消費者の低価格・節約志向は依然として強く、厳しい市場環境がつづいております。

このような状況のもと、当社は、「販売チャネルの拡大」「製品力の強化」「経営基盤の強化」に取り組み収益向上に努めるとともに、積極的な新製品の投入、重点製品の拡販に努め市場動向に即応した営業施策を展開してまいりました。販売促進面では、「鍋スマイルキャンペーン」を実施し、ブランド認知度、製品の知名度を高め、ターゲットとする消費者層への購買促進を図りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、133億65百万円（前年同期比100.7%）となりました。

利益につきましては、営業利益14億16百万円（前年同期比101.6%）、経常利益14億23百万円（前年同期比101.5%）、四半期純利益は、外食事業の店舗閉鎖損失等を特別損失に計上したことにより、7億39百万円（前年同期比92.6%）となりました。

事業におけるセグメントの概況は以下のとおりであります。

<食品事業>

たれ類は、新製品の『情熱ホルモン監修 情熱の焼肉だれ』『鮮魚亭 ガツンとにんにくたこきゅうのたれ』は順調に市場導入を図ることができたものの、既存製品は伸び悩みました。しかしながら、業務用（惣菜向け製品）が伸長したことにより、売上高45億93百万円（前年同期比99.1%）とわずかな減少に抑えることができました。

スープ類は、『野菜をいっぱい食べる鍋 じゃがバター鍋スープ』『野菜をいっぱい食べる鍋 もやし鍋スープ』など新製品投入効果があったものの、本格導入期である秋口に暖かな天候が続き、野菜価格の高騰の影響もあり、前年同期売上高にわずかに及ばず、売上高37億62百万円（前年同期比98.8%）となりました。

粉末調味料類は、『もちもち ねぎチヂミの素』が好調に推移しましたが、『味・塩こしょう』などが前年同期実績を下回り、売上高24億63百万円（前年同期比99.2%）となりました。

ソース類は、『C o C o 壺番屋監修 煮込みハンバーグソース デミグラスカレー味』を中心に好調に推移し、売上高7億16百万円（前年同期比121.4%）、ドレッシング類は、競争激化の影響により伸び悩み厳しい状況で、売上高2億22百万円（前年同期比86.1%）。青汁類は、売上高5億92百万円（前年同期比84.1%）、その他は、韓国シリーズ『鶏肉のトッポギ炒め用セット』などが売上高伸長に貢献し、売上高7億61百万円（前年同期比147.3%）、仕入商品は、売上高1億79百万円（前年同期比88.4%）となりました。

以上の結果、食品事業の売上高は132億92百万円（前年同期比100.7%）となりました。

<外食事業>

売上高は、72百万円（前年同期比105.5%）となりました。

外食事業につきましては、平成24年1月17日付「子会社の解散および清算に関するお知らせ」で公表のとおり、今後、収支の好転が見込めないため、外食事業から撤退することといたしました。

店舗ベースでは、平成23年10月14日に赤坂店、平成24年1月27日に日本橋店、虎ノ門店をそれぞれ閉店いたしました。

なお、子会社の清算は、4月下旬を予定しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ22億33百万円増加し、134億51百万円となりました。固定資産が総資産の52.5%を占め、流動資産は総資産の47.5%を占めております。主な資産の変動は、「受取手形及び売掛金」が16億64百万円、「建設仮勘定」が9億10百万円増加し、「現金及び預金」が1億49百万円減少したことによります。

負債は、前連結会計年度末に比べ16億44百万円増加し、68億14百万円となりました。流動負債が負債合計の61.2%を占め、固定負債は負債合計の38.8%を占めております。主な負債の変動は、「長期借入金」が10億80百万円、「買掛金」が3億56百万円、「未払金」が2億83百万円、「短期借入金」が2億75百万円それぞれ増加し、「賞与引当金」が1億98百万円、「災害損失引当金」が1億8百万円減少したことによります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ5億88百万円増加し、66億37百万円となりました。主な純資産の変動は、剰余金の配当1億54百万円の支出と四半期純利益7億39百万円の増加により「利益剰余金」が5億84百万円増加したことによります。自己資本比率は49.3%となり、前連結会計年度末に比べ4.6%減少しました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年3月期の通期の業績予想につきましては、平成23年5月10日に公表いたしました予想に変更はございません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

① 原価差異の繰延処理

操業度等の季節的な変動に起因して発生した原価差異につきましては、原価計算期間末までにはほぼ解消が見込まれるため、当該原価差異を流動資産又は流動負債として繰延べる方法を採用しております。

② 税金費用の計算

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,830	1,680
受取手形及び売掛金	1,922	3,587
商品及び製品	523	580
仕掛品	2	—
原材料	214	275
その他	439	385
貸倒引当金	△75	△122
流動資産合計	4,857	6,387
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,704	1,653
土地	2,658	2,687
リース資産（純額）	570	402
その他（純額）	536	1,491
有形固定資産合計	5,470	6,235
無形固定資産	35	27
投資その他の資産		
投資その他の資産	853	803
貸倒引当金	△2	△2
投資その他の資産合計	850	800
固定資産合計	6,356	7,063
繰延資産	4	—
資産合計	11,218	13,451

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,296	1,653
短期借入金	184	460
未払金	899	1,182
未払法人税等	258	267
賞与引当金	376	178
役員賞与引当金	19	14
災害損失引当金	108	—
その他	416	416
流動負債合計	3,558	4,171
固定負債		
長期借入金	400	1,480
退職給付引当金	336	375
役員退職慰労引当金	419	448
その他	454	337
固定負債合計	1,611	2,642
負債合計	5,169	6,814
純資産の部		
株主資本		
資本金	870	870
資本剰余金	379	379
利益剰余金	4,909	5,494
自己株式	△114	△114
株主資本合計	6,045	6,630
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2	6
その他の包括利益累計額合計	2	6
純資産合計	6,048	6,637
負債純資産合計	11,218	13,451

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	13,270	13,365
売上原価	6,626	6,878
売上総利益	6,643	6,486
販売費及び一般管理費	5,249	5,069
営業利益	1,394	1,416
営業外収益	39	32
営業外費用	31	26
経常利益	1,401	1,423
特別損失	27	82
税金等調整前四半期純利益	1,373	1,340
法人税、住民税及び事業税	579	601
少数株主損益調整前四半期純利益	794	739
少数株主損失(△)	△3	—
四半期純利益	798	739

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	794	739
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	0	3
その他の包括利益合計	0	3
四半期包括利益	794	743
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	798	743
少数株主に係る四半期包括利益	△3	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

該当事項はありません。

(5) 重要な後発事象

(連結子会社の解散及び清算)

当社は、平成24年1月17日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社ダイショーフードシステムズを解散及び清算することを決議いたしました。

1. 解散及び清算の理由

株式会社ダイショーフードシステムズは外食事業を展開する目的として平成20年2月に設立し営業活動を続けてまいりました。しかしながら近年における外食産業を取り巻く事業環境は厳しく、今後収支の好転が見込めないと判断し、解散することを決定いたしました。

2. 当該子会社の名称、事業内容及び出資比率

①名称 株式会社ダイショーフードシステムズ

②事業内容 外食事業の運営

③出資比率 当社100%

3. 解散及び清算の時期

平成24年1月30日 当該子会社の臨時株主総会における解散決議

平成24年4月下旬 清算終了予定

4. 当該子会社の状況(平成23年12月31日現在)

負債総額 168百万円

5. 当該解散及び清算による会社の損失見込額

当第3四半期連結会計期間で損失見積額を計上しており、今後の発生額は軽微と想定しております。

6. 当該解散及び清算が営業活動等へ及ぼす重要な影響

当該解散及び清算による営業活動等への影響は軽微であります。